

## 日本語を通して、 個々の学びや成長、 そのコミュニティを支えたい。

### よき先生方に恵まれて 教育の道を志す。

小学校から大学院までの各学校で、素晴らしい先生方と出会いました。それが、教育関係の道を歩む私の出発点です。愛知淑徳高校での3年間にも、先生方との思い出がたくさんあります。最も印象深いのは、「1年生のときに週1回提出していた『新聞ノート』。関心のある記事をスクラップし、感想をまとめるという課題です。当時1クラス50人という大所帯にも関わらず、担任の高橋よしの先生はいつも、ノートにびっしりとコメントを書いてくださいました。先生との個人的な対話の機会で侮れないと真剣に取り組んだ記憶が、心に刻まれています。振り返ってみれば愛知淑徳での友人も多様で、個々の持ち味を大切に、ボーダレスの原体験をそのような環境でした。そんな経験もあって、

教員の仕事を身近に感じてくく自然に早稲田大学教育学部国語国文学科へ。日本語学や日本文学、国語教育について学びました。大学卒業後、名古屋大学大学院で外国語としての日本語、日本語教育について学び、恩師からの勧めもあって名古屋大学留学生センター(現：国際教育交流センター)で日本語教員として働き始めました。

### 日本語を通じて 一人ひとりと向き合う

縁あって結婚した夫はカナダ人であり、哲学が専門の大学教授です。2000年、彼と共にアメリカに移住したのを機に、教育者・研究者として仕事の幅を広げたいと考え、現地の大学で教育学の修士号や第一言語習得の博士号を取得。そこで出会った先生から研究だけでなくティーチングもできる

人になるよう助言を受け、研究と同時進行で米大学における教員養成のトレーニングも受けました。その一方、二児を出産し、夫の仕事の都合でカナダへ移住。子育てが落ち着いてきた5年前からヨーク大学の教員として日本語を教えています。現在は1・2年生の3クラスほどを担当。今も支えられているのは、高1のときに高橋先生からいただいた「晶子さんは人のいいところをよく見ていますね」という言葉です。学生たちと向き合うたびに、一人ひとりを「いいところ」を伸ばすことを心がけ、授業づくりや指導・支援に力を注いできました。カナダは多文化共生を先駆けている国といわれますが、様々なバックグラウンドを持った学生たちには日本語を通して、我々をはじめ日本語を母語とする子どもたちやコミュニティにはその可能性や成長の後押しをしていきたいと考えています。



カナダ初のイメージプログラムを企画、実施。その一環で邦画を鑑賞し、その作品に登場した和食を調理。学生たちが楽しみながら学べるように試行錯誤を重ねています。



高校3年生の学園祭ではクラスで演劇を行い、演出を担当。担任の牧先生も含めてクラスが団結し、優秀賞を獲得しました。

ヨーク大学(カナダ) 日本語プログラム教員  
Dep. of Languages, Literatures & Linguistics

## 三井 晶子さん

愛知淑徳高等学校を1987年3月に卒業後、早稲田大学教育学部に進学。その後、名古屋大学文学研究科日本語文化専攻にて、またピッツバーグ大学(アメリカ)教育学部外国語教育専攻にて修士号取得。カーネギーメロン大学(アメリカ)では第二言語習得で博士号取得。現在はヨーク大学(カナダ)で教鞭をとる。